

# わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

40期

## 世代を超えた連帯感



会員 齋藤 一彦 (40期)

### 四半世紀たって甦る思い出は…

40期は、修習を終えてもう25年になるらしい。四半世紀だ。それを思い出せと言われて困ったが、今回実家で古い手帳と退色した写真を見つけ出したら、次々と思い出が甦ってきたから不思議なものだ。でも、その思い出は、講義や起案など直接の勉強に関する部分がすっぱり抜けていて、それ以外のことばかりだ。

### 名古屋での実務修習

実務修習地は名古屋だった。生まれて初めて東京を離れた生活をするようになったが、名古屋の街は大きすぎず小さすぎず、すっかり気に入った。修習生は26名で、1年4か月間の楽しく充実した実務修習だった。私は、4か月ずつ弁護・民裁・刑裁・検察と回ったが、どこでも実に大事にされているという実感があつた。

### 弁護修習から

最初が弁護修習だったのは幸運だった。指導担当の瀧川治男弁護士は温厚でとても面倒見のよい先生だった。その上、裁判所に歩いて行ける都心に自宅兼事務所があつたので、奥様が家庭料理をご馳走して下さったり、毎日家族のように親しくしていただいた。その後、名古屋を去る時まで公私にわたりお世話になり続け、よその街で初めての一人暮らしをする身には本当にありがたかつた。

### 旅行や見学

今思うと旅行や見学などの企画が多かつた。各修習で計4回、これに夏季合研(高野山)が加わり公式な旅行が5回あつた。さらに休日は、私的に修習生仲間、

先輩弁護士、名古屋でできた友人達と、信州にスキーに行ったり山登り(北アルプス縦走)をしたり、日帰りドライブなどを繰り返していたから、随分忙しかつた。中部地方を中心に、近畿、信州、北陸、紀伊など主だった観光地にはみんな行つたような気がする。

見学等も多かつた。海上保安庁の洋上訓練、名鉄電車の踏切事故再現、パトカー試乗など法曹関係以外の方々にもお世話になつた。中京競馬場では、初めに数千円のかけ金まで頂戴して、馬券を買いながら全レースを特別室で楽しんだ(なぜか幸運に恵まれ、かけ金がかかり増えた)。この時、競馬場長が、「競馬は絶対儲からないから馬券を買って見るものではありません」と挨拶したのが可笑しかつた。

### 法曹の先輩達

弁護士はもちろん裁判官や検察官も、仕事を終えてから、何度も夜の修習に連れて行つてくれた。昼間とは違う実務家の素顔や肉声に触れたことは、何よりの勉強になつた。

仕事で疲れているはずの夜に自主的なゼミを継続的にやって下さつた先生方もいた(その内の一人は竹下景子さんの父上だつた)。

今振り返ると、2年間の修習全体を通じて、法曹三者の先輩達が修習生に対して実に親切で面倒見がよかつたと感じる。同じ釜の飯を食う者同士というのか、かつて同じように先輩達にしてもらつた恩返しをしようというのか、世代を超えた大きな連帯感のようなものに包まれながら修習をさせてもらつたという実感がある。

今の修習生も、このような連帯感を感じながら修習ができていものと切に信じたい。